

カボチャを台木とするアールスメロンの接ぎ木栽培
第1報 台木の有望品種と接ぎ木メロンの生育, 収量・品質

白木己歳・篠原陽子・横山明敏・富永 寛 (宮崎県総合農業試験場)

Mitoshi SHIRAKI, Yoko SHINOHARA, Akitoshi YOKOYAMA and Hiroshi TOMINAGA :

Cultivation for Earl's Type Melon Grafted with Stock Squash

1. Commercial Variety of Stock Squash and Growth, Yield Quality of Grafted Melon

臭化メチル全廃対策のひとつとして, カボチャを台木とするアールスメロンの接ぎ木栽培を検討した。本報では, 台木の有望品種と接ぎ木栽培メロンの生育, 収量・品質等について述べる。

1. 材料および方法

実験1: 有望台木を選定するため, '新土佐1号', 'しろきく南瓜', '金剛南瓜' (以上・サカタ), 'ジャスト', '金糸瓜' (以上・タキイ), 'べんけい' (福種) を供試し, '雅早春晩秋系' を穂木とする接ぎ木を行い, 接ぎ木活着率と苗の状態, 定植後の生育等を調査した。播種は1999年9月9日に台・穂同時に行い, 9月13日にチューブを用いた断根片葉切断法で接ぎ木し, 50穴セルトレイで育苗した。定植は1.5葉期を目安に自根区は9月22日, 接ぎ木の各区は9月27日に行った。

実験2: 黒点根腐れ病の発生前歴のある圃場を使い, 無消毒の条件で, 自根区と接ぎ木区を設け, 黒点根腐れ病の発生を調査した。メロン品種は'雅早春晩秋系'で接ぎ木区の台木は'新土佐1号'とした。播種は2000年3月1日に行い, 実験1の方法で育苗し, 自根区は3月16日, 接ぎ木区は3月21日に定植した。

実験3: カボチャ台メロンの草勢と収量・品質の状態を調査するため, 自根区と接ぎ木区を設けて栽培した。メロン品種は'雅早春晩秋系'で, 接ぎ木区の台木は'新土佐1号'とした。播種は2000年3月1日に行い, 実験1の方法で育苗し, 自根区は3月16日, 接ぎ木区は3月21日に定植した。栽植密度等の栽培管理は慣行に準じ, 着果後60日目の6月15日~20日に収穫して調査に供した。

2. 結果および考察

実験1: 播種後接ぎ木までの生育には, 品種による差はなく, 各品種とも同日に接ぎ木適期に達した。また, 穂木との同時播種による接ぎ木作業上の問題は認められず, 接ぎ木活着率も揃って高かった。接ぎ木苗の定植までの生育は, 順化を経過した分自根苗より遅れ, 定植を5日遅らせる必要があった。定植後の活着は各区とも良好であったが, その後の生育は, '新土佐1号'区は自根区同様に順調であったが, それ以外の接ぎ木区は生育が劣った。中でも'ジャスト'区と'金糸瓜'区では草丈50~60cmでつるの伸長が停止した後, 枯死に至る株が認められた (第1表)。これら生育の劣る株には病害虫寄生が認められないことから, 不親和を原因とする症状と考えられた。

実験2: 自根区の全株に黒点根腐れ病が発生し, 接ぎ木区には発生しなかった (写真1)。両区とも黒点根腐れ病以外の土壌病害虫の寄生は認められなかった。

実験3: 両区ともやや旺盛に過ぎる生育を示した。このため収穫期の茎葉は, 両区とも大柄であった。特に接

ぎ木区の茎葉が大きかった。両区は果実も大きかったが, 区による差はなかった。果形をみると, 接ぎ木区は横径の数値が自根区より大きく, 極めて球形近い状態を示した。ネットの状態や果肉の厚さには区により差は認められなかった。両区は食した時の歯触り等にも差がなかったが, 果汁のBrixは自根区に比べ接ぎ木区の数値が低かった (第2表)。

以上の結果, アールスメロンをカボチャに接ぎ木する栽培は, 草勢制御や果実品質面に検討の余地を残すが, 臭化メチル全廃後の選択肢のひとつとして有望と考えられた。その場合の台木品種は'新土佐1号'がよいと考えられた。

第1表 接ぎ木活着率および定植後の状態

区名	接ぎ木活着率 (%)	定植後25日の草丈 (cm)	枯死株率 (%)
自根区	—	131	0
新土佐1号区	100	127	0
しろきく南瓜区	100	108	0
金剛南瓜区	100	119	0
ジャスト区	100	97	16.7
金糸瓜区	100	99	16.7
べんけい区	100	100	0



写真1 黒点根腐れ病の発生 (右・発生した自根区, 左・健全な接ぎ木区)

第2表 収穫時の茎葉と果実の状態

区名	茎葉の状態				果実の状態			
	草丈 (cm)	葉重 (g)	茎重 (g)	1果重 (g)	縦径/横径	ネット	果肉厚 (cm)	Brix
自根区	132	922	256	2,550	1.14	良	4.7	14.3
接ぎ木区	147	1,144	346	2,552	1.02	良	4.8	13.8